

平成29年度大規模地震時医療活動訓練に参加して ＜JDA-DATの活動報告＞

7月13日に日本栄養士会常任理事下浦 JDA-DAT 総括から大阪府栄養士会事務局を通じて、大阪府 JDA-DAT リーダーおよびスタッフに、内閣府防災より「政府における総合防災訓練等大規模地震時医療活動訓練」への参加要請があり「7月29日に南海トラフの地震（震度7）を想定し、三重県、大阪府、兵庫県及び和歌山県を被災地と想定した大規模地震時医療活動訓練を実施する」という内容であった。



訓練に参加したのはリーダー7名、活動拠点は避難所である大阪市住吉区役所管内の大領小学校であった。避難所運営と災害医療活動の訓練を13時から実施した。当日、下浦 JDA-DAT 総括は、大阪府防災センター本部で、健康づくり班の方々と協力しながら情報を JDA-DAT リーダーに伝えるという情報伝達訓練を担当した。



JDA-DAT 河村号も出動し、避難所（体育館）横に配備。キッチンカーのデモとして、パッキングクッキングの試作と非常食の展示を行った。当日は猛暑の中、避難所にはそれぞれタグづけされた地域住民100名の協力で、その要請に対応していくという避難所・救護班活動訓練であった。我々は、母親からのアレルギー用粉ミルクの必要要請にこたえ、避難所へ届けるというミッションと避難所体験ブースにおいて栄養管理の訓練を大阪急性期・総合医療センターの管理栄養士の方とともに実施した。

養士の方とともに実施した。



参加したリーダーからは、このような実践的な訓練が必要であるが DMAT の医師団との連携、行政および保健センターの管理栄養士との連携、また各都道府県の JDA-DAT との繋がりも含めた訓練を行うことも必要ではないかとの意見があった。



今回の訓練には、大阪府、大阪市、住吉区、大阪府医師会（DMAT）、薬剤師会、歯科医師会、鍼灸師会、柔道整復師会、全国日本病院協会災害時医療支援活動班（AMAT）、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）など関連団体が協力していた。

大阪府防災センターでは、情報の収集と伝達がスムーズに出来たか、また通信網（衛星回線）の状態などそれぞれの部署から振り返りの評価をされていた。



今後は、冬に向けた訓練も実施されるようである。是非参加していきたい。

（文責 福祉 米谷佳彦）